

氏名	金正 貴美
学位の種類	博士(看護学)
報告番号	甲第 67 号
学位記番号	看博第 22 号
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
論文題目	人間の Comfort と影響要因に関する研究 Human Comfort and Its Influence Factors
論文審査委員	主査 教授 野嶋 佐由美(高知県立大学) 副査 教授 山田 覚(高知県立大学) 教授 長戸 和子(高知県立大学) 教授 竹崎 久美子(高知県立大学)

論文内容の要旨

目的：本研究では、人間の Comfort がどのようなものか、人間の Comfort は影響要因とどのような関係があるのか明らかにし、そこから人間の Comfort を促進できるケアへの基礎資料を得ることとした。

研究方法：質問紙を用いた量的記述的研究である。質問紙の内容は、Comfort、健康関連 QOL (SF-36)、精神的健康 (GHQ)、家族からのサポート、個人特性 (性、年齢、職業、経済的な安定、職場の人的環境) である。対象は、国立法人や市町村役場、企業 (法人、個人) に勤務している 500 人とした。対象の権利を擁護できるよう倫理的配慮を検討し、高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認を得た。

結果：承諾の得られた 11 施設に 730 部の質問紙を配布し、574 部を郵送法にて回収した。(回収率 78.6%)。そのうち欠損値のない質問紙は 509 部であった。(有効回答率 88.7%)。因子分析、最尤法プロマックス回転 (固有値 1 以上) を行い、9 つの Comfort の構成要素《つながりを感じている》、《よりどころがある》、《前向きである》、《楽しい》、《平穩無事である》、《静かである》、《くつろいでいる》、《体が楽である》、《心地よく運動している》が抽出された。9 つの構成要素の獲得率のうち《つながりを感じている》が 66% と最も高かった。精神的健康 (GHQ) 総和と下位因子、健康関連 QOL (SF-36) の 8 つの下位因子は、Comfort 総和とすべて正の相関があった。家族からのサポートは、Comfort 総和および 9 つの構成要素とすべて正の相関があった。また Comfort を目的変数とし、健康関連 QOL (SF-36)、精神的健康 (GHQ) 総和、家族からのサポート、個人特性とを説明変数として重回帰分析 (ステップワイズ法) を行ったところ、Comfort 総和を説明する要因は、全体的健康感、家族からのサポート、心の健康、活力、余暇時間を楽しんでいる、職場の人間関係であった。

考察：Comfort とは、人が生活のなかで心地よさを感じ、《つながりを感じている》、《よりどころがある》、《前向きである》、《楽しい》、《平穩無事である》、《静かである》、《くつろいでいる》、《体が楽である》、《心地よく運動している》と実感している状態であった。《つながりを感じている》は、獲得率が最も高く人にとって実感しやすいといえ、さらに第 1 因子でもあったことから主体的に心地よさを実感するために大切な Comfort であると考えた。また個人特性に

よって Comfort に特徴があったことや Comfort を説明する要因が明らかになったことより、その人の Comfort を強みとして支援する看護ケアへの基礎資料として提示できる。

審査結果の要旨

学位論文審査委員会においては、以下の点を高く評価した。

1) 看護学の根源的な課題を取り上げていること：看護学の根本的な課題でもあり、看護学を構成する重要な概念である「Comfort」を取り上げて、看護学の歴史を踏まえつつ、Comfort を向上する看護ケアを探求している。

2) Comfort に関する学際的な視点から幅広く探求し、それらをバックボーンとして概念分析を行っていること。昨今の概念分析では、ややもすると焦点を定め、それらの文献に基づいて概念分析を行っている。すなわち、“保障された目的にあった文献”に焦点化して結果を導いているが、概念は必ずしも明確な定義や境界を有しているわけでもないので、幅広い文献探索が、一見無駄に思える作業が重要である。この時点では、5つの「楽である」「体が心地よい」「心が静かである」「つながりを感じている」「今が楽しい」といった Comfort の構成概念があることを仮定している。以上のように、金正史は広く学際的な視点で文献を検討した結果から、概念規定に至っている。

3) Comfort の測定道具の開発過程の確かさ、

概念分析で特定化した構成概念を、時間をかけて、多面的な視点から、緻密な思考にて、最終的には 61 の質問項目を作成している。データ収集後、因子分析を行った結果、9 つの Comfort の構成概念《つながりを感じている》、《よりどころがある》、《前向きである》、《楽しい》、《平穏無事である》、《静かである》、《くつろいでいる》、《体が楽である》、《心地よく運動している》を抽出することができたこと。また、Comfort と健康関連 QOL (SF-36)、精神的健康 (GHQ)、家族からのサポートとの関係を検証することで、測定道具として信頼性と妥当性が確認することができている。以上のことから、「Comfort の測定道具」を開発するひとつの重要なマイルストーンを残した。

4) Comfort 現象を説明する要因を抽出していること

Comfort 《つながりを感じている》、《よりどころがある》、《前向きである》、《楽しい》、《平穏無事である》、《静かである》、《くつろいでいる》、《体が楽である》、《心地よく運動している》の総和を説明する変数として、全体的健康感、家族からのサポート、心の健康、活力、余暇時間を楽しんでいる、職場の人間関係が抽出されている。

審査委員会では、本研究の成果をさらに発展させて、「Comfort 測定道具」を臨床でも活用できるように、さらに継続して研究に取り組むことを期待する。